

## 第2章 | 総合計画の進行管理

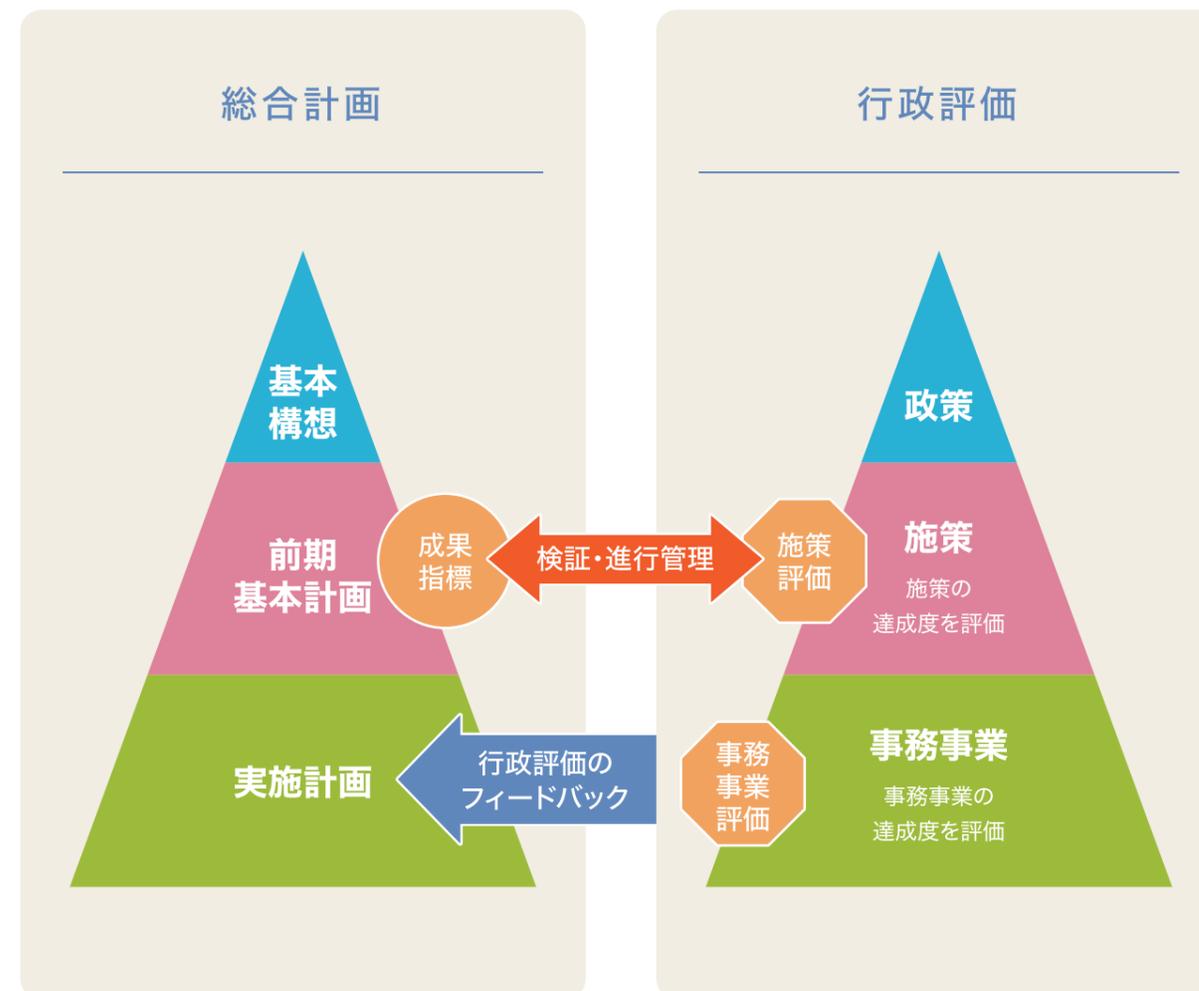
### 第1節 行政評価を活用した指標の進行管理

本計画では、施策や事業を推進した結果、将来の本市がどのような状態になるのかをわかりやすく表現するために、各政策分野を代表する指標として「成果指標」を設定しました。

200人の市民で構成する総合計画モニターへのアンケート調査により「成果指標」を毎年測定し、その結果について各施策の達成度合い等に基づき検証します。また、各施策の施策評価を行うとともに、各施策に紐づく事務事業の評価も併せた行政評価を実施計画にフィードバックしていきます。

また、後期基本計画策定時には、世論調査により本計画を評価し、その結果を後期基本計画へフィードバックしていきます。

#### 進行管理のイメージ



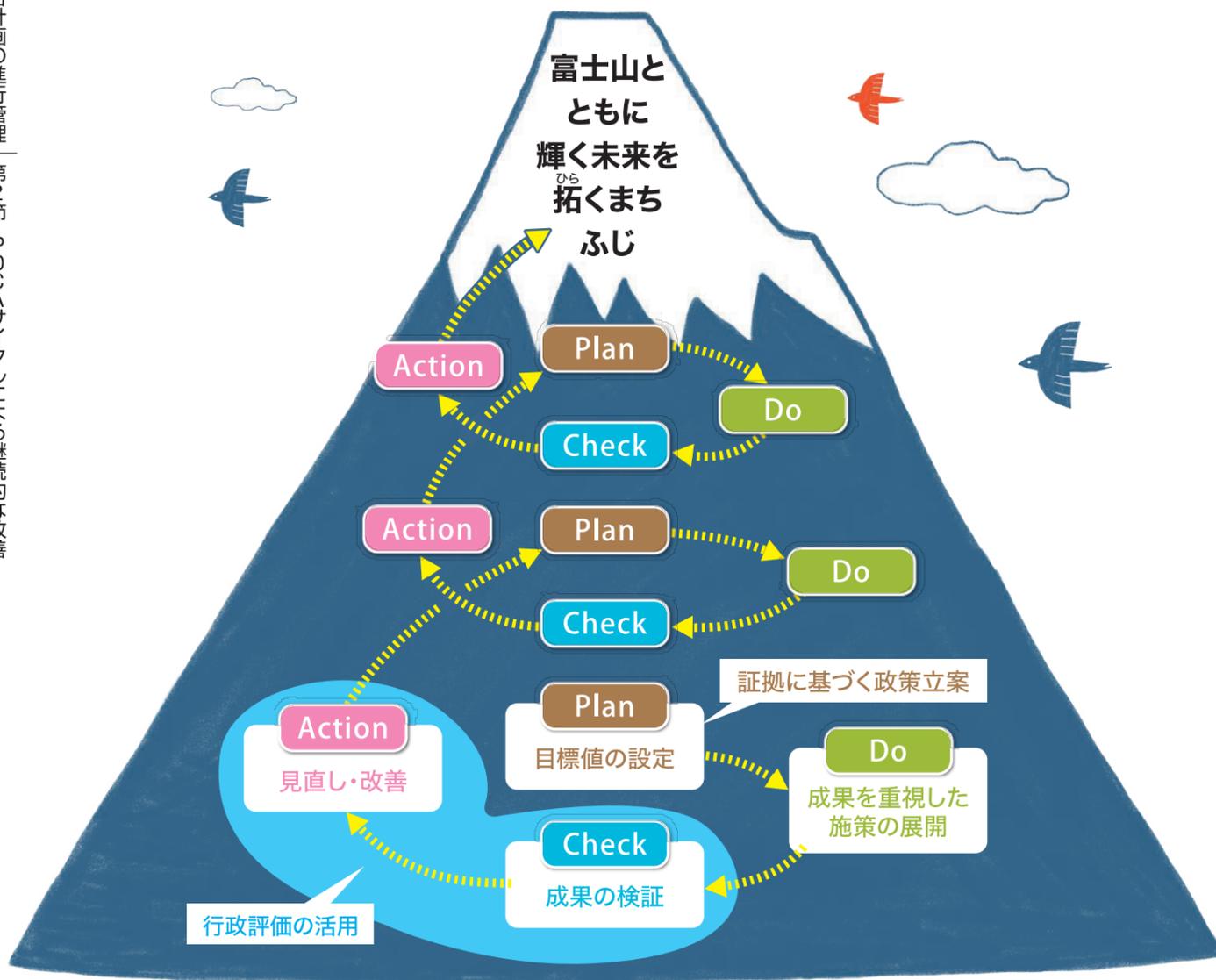
## 第2章 | 総合計画の進行管理

### 第2節 PDCAサイクルによる継続的な改善

総合計画の実施にあたっては、「Plan（計画）→ Do（実施）→ Check（評価）→ Action（見直し）」という流れを繰り返すことで、継続的な見直し・改善に取り組みます。

また、事業立案の際にはEBPM<sup>※1</sup>（証拠に基づく政策立案）の考え方を取り入れるとともに、各政策分野の成果指標の達成状況及び施策に基づく評価結果を毎年度公表し、成果や課題を市民と共有しながら、課題解決に向けて効果的かつ効率的に施策を推進します。

#### PDCAサイクルのイメージ



※1 EBPM:エビデンス・ベースト・ポリシー・メイキングの略。証拠に基づく政策立案のことであり、政策の企画をその場限りのエピソードに頼るのではなく、政策目的を明確化した上で合理的根拠(エビデンス)に基づくものとする。